

エコー療育園

**重症心身障害児(者)の方たちにも
競輪の補助事業は役立っています。**



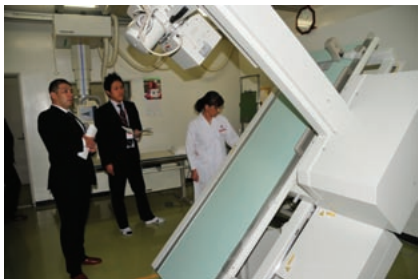
エコー療育園の外観。

宮城県仙台市青葉区芋沢にある重症心身障害児施設「エコー療育園」は、平成5年4月1日から社会福祉法人陽光福祉会が、当園は児童福祉法に基づく「重症心身障害児(者)施設」であり、また医療法に基づく「病院」としての機能をもった複合施設で、重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している重症心身障害児(者)を入所させ適正な医学管理の下に、医療・療育・リハビリ訓練等を行ない、一人一人の入所者が健康で潤いのある生活を送られるようにする事を目標とした施設です。また、厚生労働大臣が定める、障害者施設等入院基本料(第2病棟36名)及び、特殊疾患病棟入院料(第1病棟40名第3病棟34名)に関

する特別管理を行なう保険医療機関です。今回は宮城支部の阿部正宏選手が見学に来たエコー療育園を訪れました。常務理事の阿部達氏、主任の佐藤伸彦氏の両氏に園の概略についてお話を伺った後、園内を佐藤主任に案内して頂きました。まず最初に案内されたのが、平成21年度に競輪の補助事業の助成を受け、導入した最新のレントゲン透視撮影装置です。頻繁には、使われないそうですが、重症心身障害者の方々は、寝台に寝る事もままならない方が多く、寝台の昇降機能はもとより、寝台が垂直まで稼働する事により、今までより簡単にレントゲンによる透視、撮影が負担にならず行えるようになったという事でした。



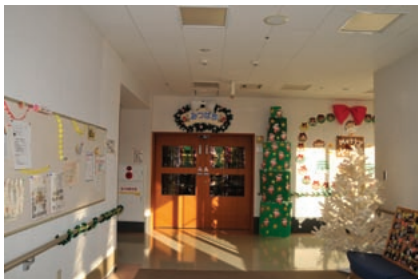
レントゲン透視撮影装置。



寝台が稼働し垂直になる。



元気な入園者の方々。



通園センター。



競輪補助事業の助成を受けて導入されたCTスキャン。



阿部達常務理事



佐藤伸彦主任

その後、園内の三つの病棟、また施設内にある光明支援学校、通園センターを見学。三つの病棟は、重症心身障害児(者)の方々の受けるサポートの状態によって分かれていて、その病棟、病棟にキメの細かい配慮がなされ、入園されている方々が素晴らしいサポートを受け、健やかに過ごされていました。今回、見学をして頂いた阿部正宏選手のインタビューは32ページに掲載しています。